

I 本校が目指す5年後の姿

1 学校の現状や課題

本校は、県立初の中高一貫教育校として平成16年に開校した。以来、中高の教員がそれぞれの特色を生かしながら協働し、6年間を見通した学習指導や効果的な中高接続を追究してきた。令和6年度には20周年の記念行事を迎える。生徒は、校訓「切磋琢磨 学べ 競え 望め」のもと、「中学生と高校生」、「中学校から入学した生徒と高校から入学した生徒」、「普通科と総合技術科」など、多彩な集団を形成しながら、互いを尊重し合い、刺激し合い、よりよい人間関係力を醸成しながら、地域や異文化と積極的に関わる取組を通して、豊かな心と主体性を育ててきた。さわやかで、高い志を持った生徒たちが、学校生活を謳歌しながら成長していく校風が伝統となっている。

平成20年度からは、総合技術科が実践してきた、ものづくりにおける「課題研究」に加え、中学校と普通科も全県に先駆けて探究活動を取り入れ、平成22年度より6年間、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定を受け、校外発表やコンテスト等で実績を残してきた（日本学生科学賞で4年連続県知事賞受賞等）。現在では、文理を問わず広範囲にわたって展開される「探究ジュニア」（中学校）、「探究基礎」・「探究」（普通科・総合技術科）とともに、各教科における探究型授業が、本校教育活動の核となっている。自ら課題を見だし、見通しを持って調査・検証し、その結果に基づいて深く考察し、適切な判断で結論を見いだす力、さらには、自分の考えを他者に分かりやすく表現する力が清陵生の強みであり、21世紀を主体的に生き抜くための原動力となるであろう。

進路実現においては、難関大学や医学部医学科等への進学をはじめ、自らの意志を貫いた進学実績を積み重ねるとともに、就職ではものづくりや公務員を中心に、県内外へバイタリティある人材を輩出してきた。地元企業の支援もいただき、徐々に県内就職率も増加している。

しかし、少子化の進行に伴い、地域の小・中学生数が減少し、小・中学校の統合も進められている中で、中学校、高等学校の入学定員の確保が大きな課題となっている。今後は、本校の存在意義、社会的役割を再確認しつつ、すべての生徒たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現を推進し、その成果をこれまで以上に地域に発信して、一層地域に愛される学校を目指す。

2 学校を取り巻く将来の状況の予測

第七次秋田県高等学校総合整備計画による予測では、横手地区の中学校卒業生数は令和12年には現在の約75%程度になるとされている。これは、生徒確保の取組に大きく影響を及ぼすものであり、本校の特色あるスクールミッションを明確にし、地域の理解を得ることを早急に進めていかなければならない。また、今後は、変わりゆく社会、「Society 5.0」をたくましく生き抜くためにも、ICT活用推進モデル校としての研究成果を「秋田の探究型授業」に反映させていくことが求められる。

3 目指す生徒像及び学校像

本校の教育目標は「21世紀を主体的に生き抜く人材の育成」であり、本校が目指す生徒像及び学校像は次のとおりである。

○ 目指す生徒像

- (1) あらゆることを自分のこととして捉え、自らの意思で責任をもって行動できる「主体性」を身に付けた生徒
- (2) 確かな学力に基づいて、自ら課題を見つけ、他者と協働して解決し、新しい価値を創造・発信できる「探究力」を身に付けた生徒
- (3) 品性や社会性を磨き、自立した一人の人間として力強く生きることができる「人間力」を身に付けた生徒
- (4) 自己の生き方・在り方に裏付けられた明確な進路目標をもち、粘り強く実現しようとする「高い志」を身に付けた生徒

○ 目指す学校像

- (1) 仲間と切磋琢磨し合い、思いやりの心に満ちた学校
- (2) 授業改善を通して確かな学力を育む学校
- (3) キャリア教育や探究的な活動を重視する学校
- (4) 国際教育やものづくり教育に積極的に取り組む学校
- (5) 地域に開かれ、地域から愛される学校

4 5年間を通しての具体的目標

(1) 新時代の確かな学力を定着させる授業改善

中高一体となった授業改善による「探究型授業」の実践を通して、持続可能な社会の担い手として必要な「新時代の確かな学力」を身に付けさせる。

- ・ 思考力・判断力・表現力等や、自ら学習しながら粘り強く学習に取り組む態度等が身に付いている
- ・ 興味、関心に応じて、生徒一人一人に適した学習活動に取り組むことができる
- ・ ICTを効果的かつ主体的に活用して学習できる

(2) 「主体性」「人間力」「高い志」を育むキャリア教育の推進

中高を通して系統的なキャリア教育を展開し、21世紀社会を生き抜くための「主体性」「人間力」「高い志」を育み、多様な進路志望を達成させる。

- ・ 個に応じたキャリア教育を行い、高い志を持って自分の目指す進路希望を実現できる
- ・ 生徒一人一人がふるさと秋田の魅力や課題について考察し、将来の秋田を意識したライフプランを考えることができる
- ・ 国公立大学へ30名、医学部医学科を含む難関大学へ複数合格する
- ・ 検定試験や資格取得試験に全員が挑戦する

(3) 「探究力」を育む系統的・体系的な「探究活動」の推進

全県に先駆けた系統的・体系的な「探究活動」に中高を通して取り組み、未来社会「Society 5.0」をたくましく生きるための「探究力」を養う。

- ・ 「持続可能な開発目標（SDGs）」をテーマに、実社会・実生活における課題を発見し、解決していく力を身に付ける
- ・ 探究活動の発表の場で、プレゼンテーション能力を発揮できる

(4) グローバル社会を生き抜くための「国際教育」の推進

中学から「国際教育」に積極的に取り組み、進展するグローバル社会に対応できる力を養う。

- ・ 中学生英語検定3級以上7割以上合格、高校生英語検定準2級以上7割以上合格する
- ・ 毎年1人以上の海外留学派遣と留学生の受け入れを行う
- ・ 中学校の海外修学旅行の交流活動では、英語で秋田を紹介できる
- ・ 高校では、世界の時事に関する情報を英語で受信し、それについての考えや提案を英語で発信できる

(5) 技術革新を支える人材を育てる「ものづくり教育」の推進

中学から「ものづくり教育」に積極的に取り組み、技術革新を支える人材を育成する。

- ・ ジュニアマイスターゴールド・シルバー・ブロンズの取得率で東北トップを目指す
- ・ 各種コンクールや大会に積極的に参加し、全国大会での入賞を目指す



Ⅱ 具体的な取組等

(1) 新時代の確かな学力を定着させる授業改善

- ① 新学習指導要領の実施に向けたカリキュラム・マネジメント、及び「育てたい力」のルーブリック評価規準を策定、運用する。
- ② 研究・研修部による中高一体型授業改善を一層推進するとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた「授業共通実践事項」をすべての授業において日常的に実践する。
- ③ 中高合同の公開研究授業を開催する。
- ④ 横手市公開研究会や小学校授業参観等へ積極的に参加し、指導力向上に生かす。
- ⑤ ICT活用推進モデル校（R3・4年度）としての取組を、地域にも発信していく。

(2) 「主体性」「人間力」「高い志」を育むキャリア教育の推進

- ① 6年間を通じた系統的なキャリア教育全体計画を立案し、中学校段階から将来への「高い志」を持たせる活動に積極的に取り組む。
- ② 地域人材や卒業生を招いての講話やインターンシップ、大学見学会などを積極的に計画し、生徒に刺激を与え、早期に進路への意識付けを図る。
- ③ スケジュール管理手帳を有効に活用し、「自己管理能力」や「将来設計能力」の育成を図る。
- ④ 主権者教育や防災・安全教育もキャリア教育の一環と捉え、計画的に指導する。
- ⑤ 先生方の豊富な人生経験から「生き方・在り方」を語り、生徒の心を動かす。
- ⑥ 生徒会活動や部活動、ボランティア活動、探究活動等を通して、生徒の主体的な活動を促すとともに、自他を尊重し協働して課題解決にあたる実行力やコミュニケーション力、リーダーシップ等を身に付けさせ、「人間力」の育成につなげる。

(3) 「探究力」を育む系統的・体系的な「探究活動」の推進

- ① 6年間の系統性を意識した中学校「探究ジュニア」、高校「探究基礎」「探究」「課題研究」の一層の充実を図る。
- ② 「課題研究発表会」「企業体験プログラム」等を通して学校間交流、地域交流を促進し、研究成果を積極的に発信する機会を増やす。
- ③ 各教科の授業において探究型学習を通じた課題解決力や言語能力の育成を図り、探究活動の実践に結び付ける。
- ④ 自然科学部、家庭クラブ、メカトロ部など探究型部活動を一層充実させ、各種大会やコンクールに積極的に参加する。

(4) グローバル社会を生き抜くための「国際教育」の推進

- ① 県指定の「AKITA グローバル・ネットワーク事業」を推進する。
- ② 英検受検を奨励し、よりレベルの高い級を目指させ、実践力を身に付けさせる。
- ③ 留学生の受け入れなどの国際交流の機会を設定するとともに、留学できる中学生を育成する。留学に挑戦しやすい環境を整える。
- ④ 海外修学旅行を積極的に計画する。
- ⑤ 高校教育課英語教育推進班の事業に積極的に参加するとともに、秋田大学や国際教養大学等との連携による外国人留学生との交流会などを企画する。

(5) 技術革新を支える人材を育てる「ものづくり教育」の推進

- ① 各種検定・資格取得を奨励し、進路目標の実現に結び付ける。
- ② 課題研究やものづくりコンテスト等への参加を推進し、上位進出を目指す。
- ③ 地域企業・人材を積極的に活用し、学習意欲を高め、働く意義を学ばせる。
- ④ 将来、工業系高校で指導者となる人材を育成する。